

# 介護医療院における アドバンス・ケア・プランニングの 実態調査

～スタッフへのアンケートをもとに～

# 1.はじめに

近年、人生の最終段階における意思決定支援として、アドバンス・ケア・プランニング（以下ACP）の重要性が指摘されています。

ACPとは、本人が意思表示出来るうちに将来の医療やケアについて本人・家族・医療チームで話し合い、その内容を共有していく取り組みです。

介護医療院では、寝たきりや認知症の高齢者が多く、本人からの意思確認が難しい場面が多くあります。

しかし、現場働く職員がACPをどの程度理解し、また実際にどのような困難を感じているのかは十分に明らかになっていません。

そこで本研究では、職員のACPに対する認知度と実態を明らかにし、その結果を踏まえて今後どのような取り組みが必要なのかをまとめました。

## 2. 研究方法

### <対象>

入所者60名の介護医療院に勤務する職員29名

### <調査内容>

- 1) ACPという言葉の認知
- 2) ACPに関する研修受講歴
- 3) 本人や家族への意思確認の経験
- 4) ACPに関する困難感

## ① ACPの言葉の認知と研修受講歴

- ・ 介護士はACPという言葉自体を知らない。
- ・ 看護師やケアマネージャーは言葉としての認知は比較的高いものの、体系的に学んだ経験はほとんどない。
- ・ 研修受講者は全体としても非常に少ない。

## ②本人や家族への意思確認の経験

- ・看護師及びケアマネージャーは、将来の療養場所や医療・ケアの希望について本人や家族に確認した経験は比較的多い。

### ③ ACPに対する困難感

「どこまで踏み込んでいいのか分からない」

「家族との意見の違いに悩む」

「話題の出し方が難しい」

ACPを「知っている」事と「実践できる」事の間には大きな壁がある。

勉強会の資料はこちらを参考にしました。

## 4原則(医療倫理の4原則)

1. 自律尊重の原則 (Respect for Autonomy)
2. 無危害の原則 (Non-maleficence)
3. 善行の原則 (Beneficence)
4. 公正の原則 (Justice)

# アドバンスケアプランニング(ACP)の必要性

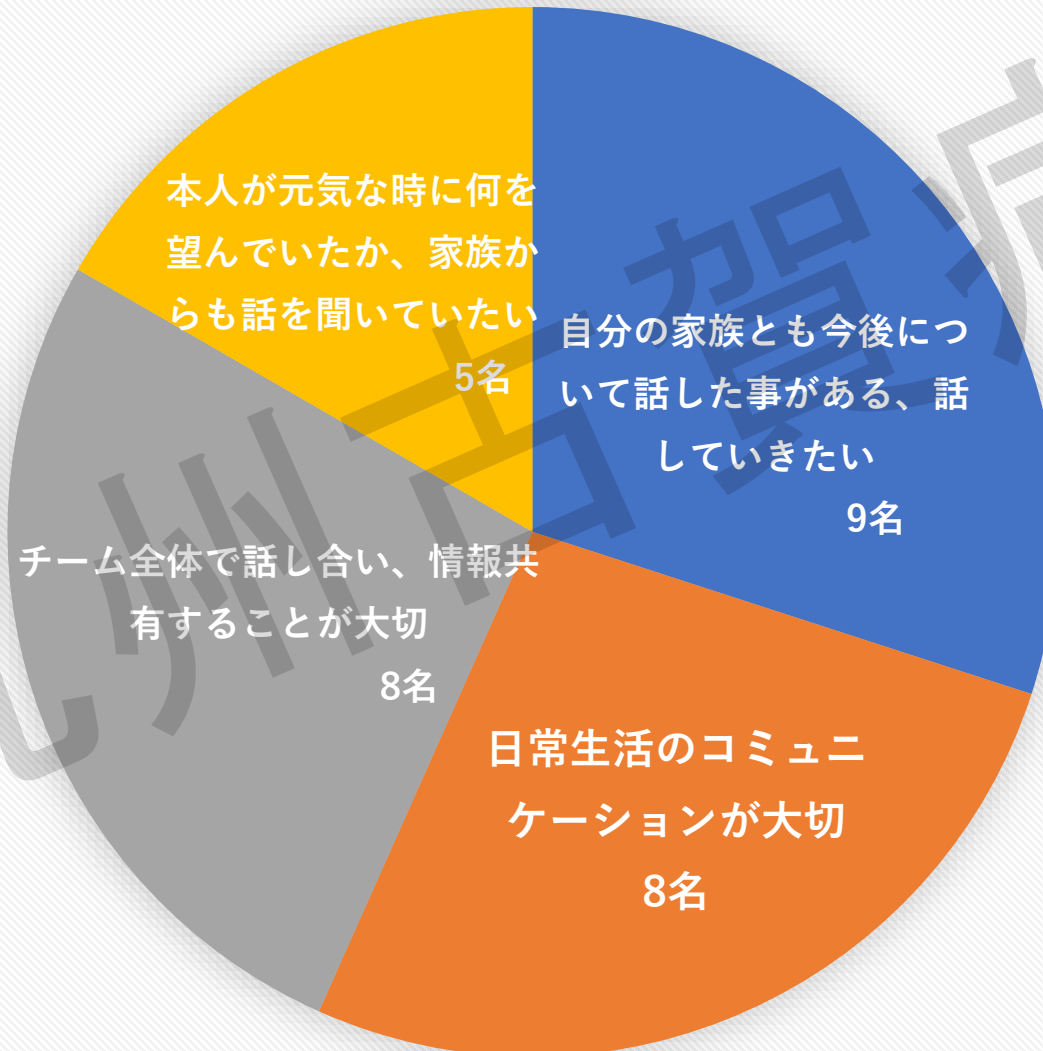
もしもの時、本人が望まない医療やケアを避け  
自分らしい生き方を実現するための非常に重要なプロセスだからです。

## 今後ACPが必要とされる主な理由

- 1、本人の意思の尊重
- 2、家族の負担軽減と支援
- 3、医療・ケアの質の向上
- 4、後悔の防止
- 5、自分らしい生き方の実現

### 3. 勉強会の実態とその後の変化

#### 結果



## 4. 考察・まとめ

始めはACPという用語や体現的理解は十分に浸透していなかった。勉強会を終えてほとんどの職員がACPに関心を持ち理解を深める事ができた。ACPを難しいものと捉えずに日々の関りの中で実践していけるものとして再認識する事ができた。日々の何気ない会話の中にある思いや希望等から価値観を見つけていく。その為にもしっかりと信頼関係を築いていく事が大切である。

## ACPの概念・定義

厚生労働省（2018）人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）に関するガイドライン

## 高齢者施設のACP

日本老年医学会（2019）

高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン

## 医療倫理学

日本看護協会出版会

ご清聴ありがとうございました

北九州古賀病院